

新潟県長岡地域振興局長賞

「税と私たちの生活」

新潟大学附属長岡中学校

三年 長谷川 明音

「税」と聞いて、私は消費税や所得税などが思い付いた。消費税は、自分で買い物をする時に納めているが、所得税など大人しか納めないものに関してあまり実感がわかなかった。私たちが納めているものが一体何に使われているかを知ってから、「税」に対する考え方が変わった。

先日、税についての講演をしていただいたときに、もし税金が無かったら社会はどうなるのかというビデオを見た。以前私は、税は国が何かをするものであって、実際に税が無くなってもあまり影響はないと思っていた。ビデオを見て、税は私たちの生活を支えてくれているものだと実感した。

「税」が支えてくれているものの一つ目は環境。普段町でよく見かけるゴミ収集車。ゴミの回収も税が使われている。当たり前のように、ゴミを回収してくれているが、税が無ければ町はゴミだらけで不衛生になってしまう。二つ目は治安・健康。パトロールをして町を守ってくれたり、事件や事故が起きたときにすぐに駆け

付けてくれる警察や消防も税があるから、活動している。私たちがケガなどをして病院に行ったときも、税金により負担がされている。最近では新型コロナウイルスも流行していて、ワクチン接種も促されている。私がワクチンを打ったとき、いつもであれば終わった後に会計をしてから帰ったが、何もすることなく帰った。これも実は税金が使われていた。この他にも、毎年学年が上がると配付されていた教科書や机、イス、黒板、学費にも税が使われている。また、壊れた道路を直したり、信号なども支えられている。新潟県では、公共施設として水族館の「うみがたり」に使われていた。災害が起きて、避難した人々のための食料や水、町の復興などに役立てられている。

「税」はただ追加で払っているお金で、いいことはあまり無いと思っていた。だが、税はなくてはならない存在だと感じた。今、安心・安全に、学校に通い友達と話したりすることは全て「税」のおかげだった。新型コロナウイルスのワクチンや、災害で避難した人々の食料や水を用意することも幅広い年代の人たちの命を救っている。修学旅行で訪れた「うみがたり」も税金が使われていてとても驚いた。

今の生活は誰かが納めてくれた税金で成り立っているのだと実感した。これから、そして未来の人々が安心して生活を送ることができるよう税金を納め、大切さを忘れないようにしたい。